

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

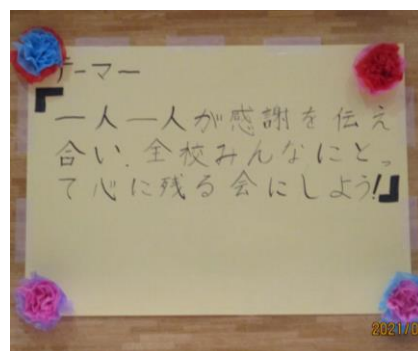
- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

## 6年生を送る会

2月26日(金)に、新児童会主催による「6年生を送る会」が開催されました。本来であれば全校児童がそろっての会にしたいところですが、新型コロナウイルス感染防止のため、それが許されません。そこで、新児童会本部のみんなが内容を考え、各学年とのお別れ式(体育館で各20分程度)&スライド放映(全校放送)という形式で行われました。その中で、簡単なゲームをしたりお別れの言葉を言ったり・・・どの学年も感動的なシーンが見られました。また、各学年に割り振られた仕事内容に沿って、装飾等の準備も進められました。特に5年生は、卒業式に出られない分、お世話になった6年生一人一人にお礼の言葉やお別れの言葉を伝えました。自分の名前が呼ばれると、照れながらも喜んでいた6年生の姿が印象的でした。お世話になった6年生の卒業を祝うとともに感謝を伝え、またそれぞれの学年とも一回り成長する機会になったことと思います。



1年生との  
触れ合いで  
す。ゲームで  
楽しんだ後、  
言葉と踊り  
で感謝を伝  
えました。



2年生は、  
「なんちゃ  
ってぼっちゃ  
ゲーム」を  
一緒に楽し  
みました。お  
別れもしっ  
かりできま  
した。





3年生は、30秒チャレンジゲームの後、得意な花笠で元気にエールを贈りました。



4年生は学んだ四字熟語を使ってのメッセージと、手話で感謝やお別れを伝えていました。



5年生は、お世話になった6年生一人一人に向け、心に染み入る別れの言葉を伝えていました。



この後ビデオ放送にて、「思い出のスライド」と6年生からの歌のお返しがありました。

### お願い

本校では学校ボランティアとして、多くの方に安全の見守りや学習へ参加をいただいております。今年度各家庭にお配りした「百田みまもりたすき」もその一環です。ぜひ来年度もご協力をお願いいたします。今後、加えての協力をいただきたいことがあります。

① 草刈り、枝打ちなどをしていただける「環境ボランティア」

② 冬場、降雪時に重機にて学校敷地内及び周辺の雪かきをしていただける「除雪ボランティア」

です。新年度になりましたら募集のお願いを出す予定でおります（その他も加えて）。できるときだけご協力いただければ結構ですので、「協力してもいいな」と思われる皆様は、ぜひボランティア登録をお考え下さい。また、活動が普通日になることが多いと思いますので、祖父母の皆様のご協力も大きな力となります。ぜひよろしくをお願いいたします。

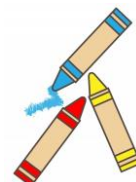
## 一年間ありがとうございました

日ごろより児童に対する指導へのご理解・ご協力ありがとうございました。どのご家庭でも、日々子供のことを考えながら子育てをされていることと思います。時折コラムをつづらせていただいた学校便りも、いよいよ最終号となりました。今回は「kokoro 堂」というサイトから拾った話をいくつかご紹介して、終わらせていただきたいと思います。

### 娘のいたずら

長女（当時4歳）が幼稚園の行事の参加記念品だかで箱に入ったクレヨンのセットをもらってきた。ところが、こともあろうにその日の夕方、見事に全部折っちゃった。当然うちの嫁は激怒、しかられて長女も大泣き。

それで、「お前、なんであんなことしたんだよ？」と聞いてみたら、「〇〇ちゃん（次女、当時2歳）と ヒック  
クレヨン半分こするって ヒック 約束したんだもん ヒック」  
思わず長女を抱きしめた。



### 母のデジカメ

なんか機械音痴の母がデジカメを買った。どうやら嬉しいらしく、はしゃぎながらいろいろと写してた。何日かしてメモリがいっぱいで写せないらしく「どうすればいいの？」って聞いてきたが「忙しいから説明書読め！」とつい怒鳴ってしまった。

さらに「つまらないものばかり写してるからだろ！」とも言ってしまった。そしたら、「・・・ごめんね」と一言。そんな母が先日亡くなった。遺品整理してたらデジカメが出てきて、何撮ってたのかなあと中身を見たら俺の寝顔が写ってた・・・。涙が止まらなかった。



### 涙のお味噌汁

6歳の娘がクリスマスの数日前から欲しいものを手紙に書いて窓際に置いておいたから、早速何が欲しいのかなあと夫とキティちゃんの便箋を破らないようにして手紙をのぞいてみたら、こう書いてあった。「サンタさんへ おとうさんのガンがなおるくすりをください！おねがいします」。夫と顔を見合わせて苦笑いしたけれど、私だんだん悲しくなって少しメソメソしちゃった。昨日の夜、娘が眠ったあと、夫は娘が好きなプリキュアのキャラクター人形と「ガンがなおるくすり」と普通の粉薬の袋に書いたものを置いておいた。朝、娘が起きるとプリキュアの人形もだけれど、それ以上に薬を喜んで「ギャーっ！」って嬉しい叫びを上げてた。早速朝食を食べる夫のもとにどたばたと行って「ねえ！サンタさんからお父さんのガンが治る薬貰ったの！早く飲んでみて！」って言って、夫に薬を飲ませた。夫が「お！体の調子が、だんだんと良くなってきたみたいだ」と言うと娘が、「ああ！良かった～。これでお父さんとまた、山にハイキングに行ったり、動物園に行ったり、運動会に参加したりできるね～」…っていうと夫がだんだんと顔を悲しく歪めて、それから声を押し殺すようにして「ぐっ、ぐっ」って泣き始めた。私も貰い泣きしそうになったけれどなんとか泣かないように鍋の味噌汁をオタマですくって無理やり飲み込んで態勢を整えた。夫は娘には「薬の効き目で涙が出てるんだ」と言い訳をした。その後、娘が近所の子の家にプリキュアの人形を持って遊びに行った後、夫が「来年はお前がサンタさんだな…。しっかり頼むぞ」と言ったので、つい私の涙腺が緩んで、わあわあ泣き続けた。お椀の味噌汁に涙がいくつも混ざった。



## 天国から届いたランドセル

幼くして父親を亡くした女の子が、小学校に入学するころのことでした。周りの子はみんな、親から買ってもらった赤いランドセルを背負って通学していました。しかし、その子の家庭は幼くして父親を亡くし母子家庭でしたから、ランドセルを買ってもらえるほどの余裕がなかったそうです。もちろん、家に余裕の無いことがわかっていたその子は、ランドセルがほしくても母親にねだることはできません。子どもながらに、それはお母さんを困らせてしまうことだとわかっていたからです。でも、毎日友達と通学していると、どうしても自分もあの赤いランドセルがほしくてほしくてたまらなくなります。通学路にあるお店のショーウィンドーに飾ってある、新品でピカピカの赤いランドセルをいつも眺めていたそうです。

そんなある時、彼女は考えました。「お母さんに迷惑をかけるわけにはいかない。でも、私もあの赤いランドセルがほしい……。そうだ、お父さんをお願いしてみよう!! きっとお父さんなら私の願いを叶えてくれるにちがいない!!」そう思った彼女は、天国にいるお父さんに手紙を書くことにしました。まだ、習いたてのひらがなで、一生懸命にお父さん宛にハガキを書きました。『てんごくの おとうさんへ わたしは、ことししょうがくせいになりました。ベンキョウもがんばっています。いっぱいがんばって、おかあさんをたすけようとおもいます。だから、おとうさんにおねがいがあります。わたしに、あかいランドセルをください。いっぱい、いっぱい、ベンキョウして、がんばるから。いいこにしているから。おねがいします。』もちろん、天国へのハガキです。宛名は“天国のお父さんへ”と書いてポストに投函したそうです。

そのハガキを集配し、郵便局の職員の方がそのハガキを見つけます。宛名は天国……。ハガキの表には、幼い彼女が一生懸命に書いたあの文章……。いつものように差出人不明で送り返すわけにも行かず、このハガキを手にとった職員がどうしたらいいんだろうと仲間の職員の方に相談したそうです。「ねえ、見て、このハガキ……。どうしたらいいんだろうかあ……。送り返すにはあまりにも残酷だよね」「う〜ん……。そしたら、僕たちがこの子の天国のお父さんになろうよ」「えっ、どうやって」「仲間みんなにお願いしてさあ、ちょっとずつお金を出し合って、ランドセルを買ってあげようよ!」そして、郵便局の職員のみんなで、ちょっとずつお金を出し合い、真っ赤なピカピカのランドセルを買うことにしました。そしてそのランドセルを小包にいれ、その郵便局の中で一番字の上手い人が代表して、お父さんのメッセージを書いて、その子の家に送ったそうです。「〇〇ちゃん、お手紙ありがとう。お父さん、とってもうれしかったよ。いつも頑張っているのを天国から見ているからね。これからも、優しい人になってね。そして、お母さんを助けてあげようね。天国からいつも〇〇ちゃんのことを応援しているよ。ちょっと遅くなったけど、ランドセル贈るね!!」

数日後、ランドセルとメッセージの入った小包が女の子のところへ届きます。その女の子は飛び跳ねるように喜び、お父さんからランドセルももらったと、はしゃいでいたそうです。

そして、数年後この話を作文に書き、全国のコククールで入賞したそうです。

